

## 特集「情報教育～理論・実践・効果～」の 編集にあたって

中 森 眞 理 雄<sup>†1</sup>

昨年に引き続き、「情報」教育に関する2回目の特集「情報教育～理論・実践・効果～」を組ませていただいた。対象は、情報教育の情報科学・工学的・教育学的見地からの抽象・設計・評価、初等中等高等教育・企業教育などの情報教育における目標・方法論・理論・実践例・評価とその手法、情報教育教材、各種教育支援ツール、e-Learning, CMS, LMS, 情報教育の評価手法などに関するものとし、範囲を広くして、論文を募集した。

投稿された論文は、対象は学校（初等・中等・高等）教育から企業内教育まで多岐にわたり、内容は、情報科学の観点から教育の方法を論ずるもの、教育学の観点から情報科学・情報技術の教育方法を論ずるもの、「情報」教育のカリキュラム・教材・システム環境を論ずるもの、広範囲の教育の情報化を論ずるもの、教育行政の理念を論ずるもの、個別事例や実践例を報告するものなど、多彩であった。

投稿論文数は34編あり、採録された論文は9編であった。採択率は約27%である。投稿数は減ったが、採録された論文数は増えた。第1回特集「情報教育～理念・理論・実践～」に掲載された8編の論文が参考になったためか、情報教育分野として不適切な投稿もなく、投稿論文全体の質が向上していた。また、「コンピュータと教育」研究会、サマーセミナーSSS、情報科学技術フォーラムFITなどを通じて論文の質の向上に努めてきた効果もあったと思われる。とはいうものの、27%という採択率はまだ高いとはいえない。サーベイや評価の不十分さ、信頼できる根拠や議論の進め方の不明確さなどがあるが、口頭発表と論文誌の違いが十分に理解されていないことも大きい。不採択論文にも興味深いテーマが多かったため、完成度を高めて再度投稿されることが期待される。

採録された論文は、「協調学習」、「主体的な学習を促す教育環境」、「IT人材育成」、「情報教育を通じた地域貢献」、「初心者向け情報教育の評価」に分けて整理している。協調学習で

は、分散非同期学習環境への適用を論じた1編がある。主体的な学習を促す教育環境では、意思決定の失敗事例をビジネスゲームで学ばせる試みを論じた1編とアルゴリズム学習における間違い探し形式の演習課題を自動生成する手法を提案した1編がある。IT人材育成ではカリキュラムを論じた1編とインターンシップを論じた1編がある。情報教育を通じた地域貢献では、大学生が情報教育支援ボランティア活動を論じた1編がある。初心者向け情報教育の評価では、実作業を通じたアルゴリズムの学習を論じた1編とインタラクティブを通じた教育の評価を論じた2編がある。

最後に、本特集号を出版する上でご協力いただいた編集委員、タイトなスケジュールの中で丁寧にも公平に査読をしていただいた匿名の査読者、スケジュール管理をはじめ適切な支援をしていただいた学会担当者の方々に感謝の意を表します。

「情報教育～理論・実践・効果～」特集号編集委員会

- 編集長  
中森眞理雄（東京農工大学）
- 編集委員（五十音順）  
大即洋子（清和大学）、奥村晴彦（三重大学）、角田博保（電気通信大学）、金子敬一（東京農工大学）、兼宗 進（一橋大学）、神沼靖子（本学会フェロー）、川合 慧（放送大学）、駒谷昇一（筑波大学）、高岡詠子（千歳科学技術大学）、立田ルミ（獨協大学）、辰己丈夫（東京農工大学）、田中雅章（鈴鹿短期大学）、中野由章（千里金蘭大学）、中平勝子（長岡技術科学大学）、並木美太郎（東京農工大学）、西田知博（大阪学院大学）、林 敏浩（香川大学）、坂東宏和（桜美林大学）、松浦敏雄（大阪市立大学）、山之上卓（鹿児島大学）、吉野 孝（和歌山大学）、和田 勉（長野大学）

<sup>†1</sup> 東京農工大学